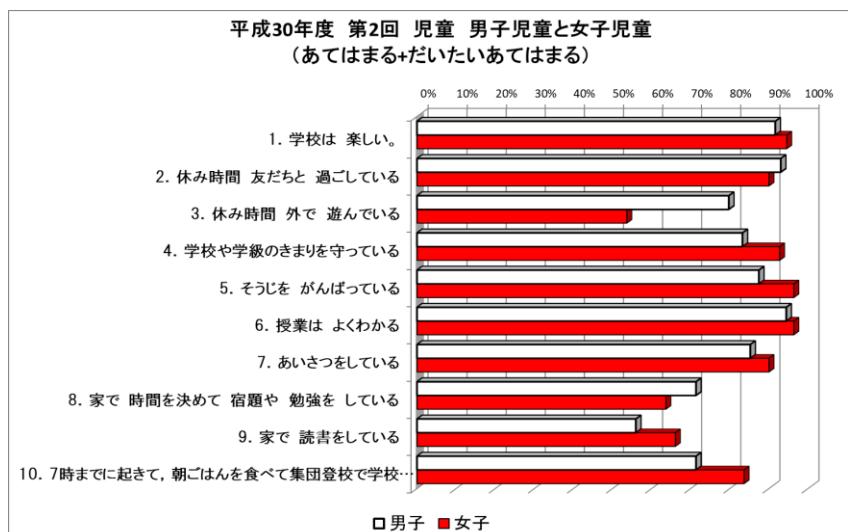
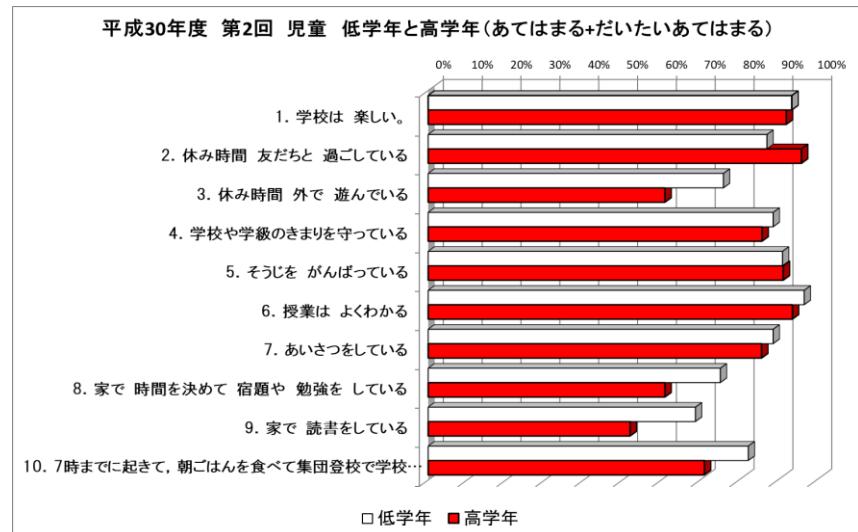
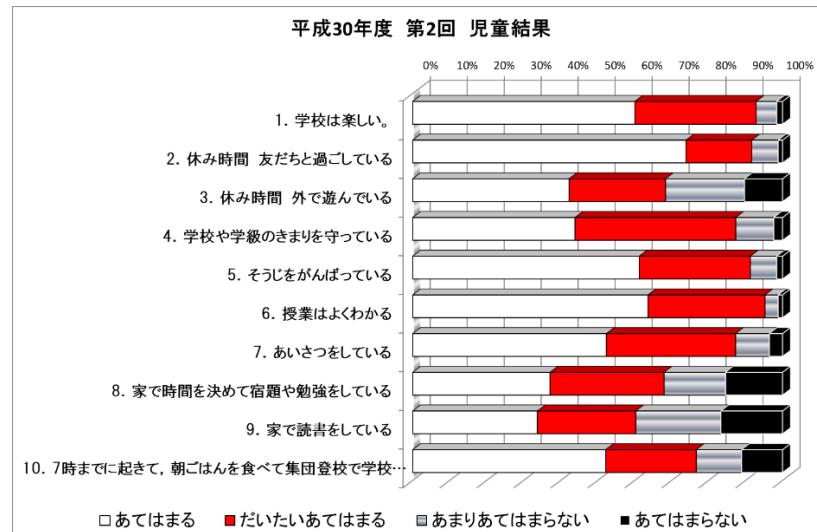


光徳だより 平成30年度 第2回 学校評価号

平成31年3月発行 京都市立光徳小学校 校長 斎木光子



(1) 児童の結果より

①1~10の項目を比べて(左図)

90%以上ある項目は「1.学校は楽しい」「2.休み時間友だちと」「5.そうじ」「6.授業がわかる」です。80%台は「4.きまりや約束」「7.あいさつ」です。

70%以下になると、「10.集団登校」77%,「3.休み時間の外遊び」68%,「8.家庭学習」68%,「9.家庭読書」60%となっています。

平成30年度第1回と比べ5%以上変化しているのが、「8.家庭学習」+6%,「10.集団登校」-5%です。「8.家庭学習」は、前回-8%でしたが今回+6%となったため、平成29年度後期レベルに戻りました。「10.集団登校」は、前回-5%だったので、平成29年度後期と比べ-10%となっています。

のことから、本校の課題として家庭学習習慣及び家庭読書習慣、そして休み時間の外遊びする児童が少ないと基本的生活習慣です。

②低学年児童と高学年児童を比べて(中図)

低学年児童と高学年児童を比べ5%以上差があるのが、「2.休み時間友だちと」「3.休み時間の外遊び」「7.あいさつ」「8.家庭学習」「9.家庭読書」「10.集団登校」です。

「2.休み時間友だちと」は9%高学年が多く、「3.休み時間の外遊び」は15%低学年が多くなっています。「8.家庭学習」14%と低学年が多くなっており、前回

と差が広がっていますが、低学年も高学年も増えています。しかし、低学年の増え方が大きいため、差が広がったことになっています。低学年時の習慣化が大切であると考えられます。

③男子児童と女子児童を比べて(右図)

男子児童と女子児童を比べ5%以上差があるのが、「1.学校は楽しい」「3.休み時間の外遊び」「4.きまりや約束」「5.そうじ」「7.あいさつ」「8.家庭学習」「9.家庭読書」「10.集団登校」です。

一番大きく差があるのが「3.休み時間の外遊び」で26%男子児童が多くなっています。前回の差が17%だったので、より広がっています。②の結果と合わせると、外遊びしない児童は、高学年の女子児童により多くなっていることが分かります(部活動ではがんばっています)。

次に差があるのが「4.きまりや約束」「5.そうじ」「9.家庭読書」「10.集団登校」で女子児童の方が9~12%多くなっています。特に、「10.集団登校」は前回4%女子児童が多かったのが12%の差に広がっているため、男子児童の朝の生活が困難になっていると考えられます。

あまり差がなかった「8.家庭学習」は前回4%男子児童が多くなりましたが、今回の差は8%と広がっています。「8.家庭学習」は、前回と比べ全体的に増えており、男女とも前回より増えていますが、男子児童

の増え方がより多かったためです。

④児童の回答から見られる傾向

【1】児童全体の項目を比べて

※「きまりや約束を守る」「そうじをがんばる」「授業がよくわかる」の3項目が関係しあっています。

◎以下は上記3項目以外で特徴的な傾向です。

【2】女子児童の項目を比べて

※休み時間友達と過ごす女子児童は、外でよく遊んでいる。

【3】男子児童の項目を比べて

※あいさつのできる男子児童は、学校が楽しく、きまりや約束を守り、そうじをがんばり、授業が分かり、生活習慣が確立している。

【4】低学年児童の項目を比べて

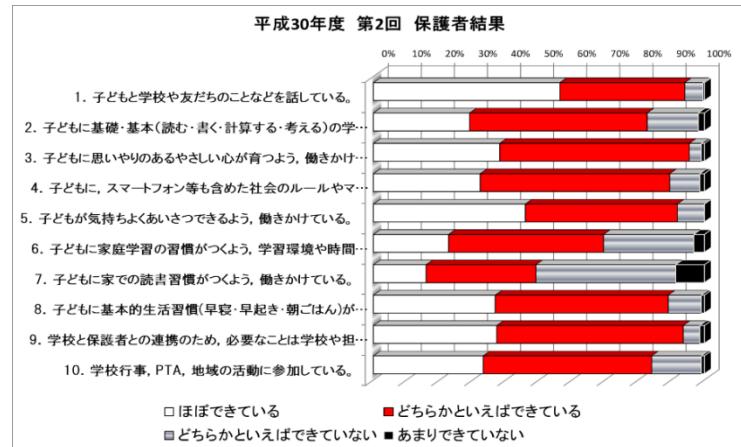
※休み時間友達と過ごす低学年児童は、外でよく遊んでいる。

【5】高学年児童の項目を比べて

※あいさつのできる高学年児童は、きまりや約束を守り、そうじをがんばり、授業がよくわかる。

以上から考えられることは、「きまりや約束を守る」「そうじをがんばる」「授業がよくわかる」ことは児童の生活で、いろいろな面に影響を与え大切であると考えられます。

(2) 保護者の結果より



①1~10の項目を比べて

前回から、保護者も自己評価という形式でアンケートに答えていただいている。

90%以上ある項目は「1. 子どもと学校のことを話している」「3. 思いやりのある心」「4. 社会のルールやマナー」「5. あいさつ」「9. 担任・学校との連携」、80%台の「2.

学力定着」「8. 基本的生活習慣」「10. PTA や地域の活動」です。

それ以下になると、「6. 家庭学習習慣」70%, 「7. 家庭読書習慣」49%となっています。

前回と比べて、5%以上の差があるものは、「2. 学力定着」+5%, 「7. 家庭読書習慣」+6%「8. 基本的生活習慣」+7%と増えており、家庭での働きかけが増えています。

児童の変化と比較してみると、児童は「8. 家庭学習」増加していることから「2. 学力定着」の働きかけが功を奏していると考えられますが、「9. 家庭読書」の微増(+1%)「10. 集団登校」の減少(-5%)なので、家庭での働きかけが影響を与えたかったと考えられます。

②低学年児童保護者と高学年児童保護者を比べて

5%以上差があるのは「1. 子どもと学校のことを話している」(+10%)「2. 学力定着」(+14%)「6. 家庭学習習慣」(+9%)「9. 担任・学校との連携」(+6%)です。

(3) 本校として取り組むこと

以上の結果から、本校児童がより成長するための課題は「家庭学習習慣」「家庭読書習慣」だと考えております。

家庭学習習慣の定着は、教職員が日々の授業をより良くしていくとともに、家庭学習習慣定着のための適切な課題の選定だけでなくその意義も指導していきたいと考えております。保護者の皆様には、家庭学習や家庭読書の習慣がつきやくなるよう、時間を決めて声をかけるなど、家庭環境を整えていただくようご協力をお願いいたします。

なお、児童の回答とプレジョイントプログラム・ジョイントプログラムの結果を分析してみると、「あいさつをする」「そうじをがんばる」児童は国語・算数の結果が良好で、

学力に大きな影響を与えることが分かりました。また、「基本的生活習慣」ができる児童も国語・算数の結果が良好であることが分かっています

このことから、保護者の皆様には「あいさつ」ができるようお子様に働きかけていたいですが、学校でもあいさつする児童がより多くなるよう、引き続き取り組みを振り返り、指導を進めていきたいと思います。そして、清掃指導にもより取組を進めていきたいと考えています。

「基本的生活習慣」に関しては、保護者の皆様のご協力が大きく影響します。よろしくお願いします。

- 集団登校ができない児童が増えているが、どれくらい、どんな理由なのか。
 - できない児童はほぼ決まっている。理由として、寝坊があるが、テレビを見ていた、ゆっくり過ごしていたなどある。
- 集団登校をしない学校から転入した児童は、なぜしなければならないか理解できない。特に、学校の近くに住んでいると特に思う。
 - 学校に近いと必要ないよう思うのは分かるが、集団登校は、安全のためだけでなく高学年が低学年の面倒を見るというようなたてわり活動も大切である。高学年は大変だとわかるが、それに見合うものを身に付けられる。
- 事故や事件を防ぐためにも集団登校を続けていく必要がある。また、学校に行きたくないと思うことがあっても、集団登校があるといかなくてはいけない

学校評価推進委員会から ○各委員の皆さんからの御意見等 ●学校側的回答

と思える。

●本校校区は、集団登校のために集まる場所も集団登校するのに安全な歩道もある。集団登校できる環境は整っている。

○朝の挨拶は、する子はするという感じがする。ただ性格もあるので難しい面もあるが、中学生になるとするようになるのはなぜなのか。また、友だちがいるとあいさつする子、いない方があいさつする子と様々だと感じている。

●あいさつをすることはコミュニケーションの第一歩。子どもは大人の姿を見ているので大人から積極的にあいさつするようお願いしたい。学校でも教職員はあいさつするように心がけている。中学生になると子ども自身が意識できるのであいさつをするようになる。小学生はあいさつをすることがうれしさに結びつかない。学校ではあいさつ

運動を、たてわり班、クラス、委員会、登校班と様々な単位で取り組んだ。ただ、教職員もさらに意識を高めることも必要と感じている。

○「授業がよくわかる」が多いのはすばらしい。しかし、「学校は楽しい」は100%になってほしい。また、英語が入ってくるが、どうなのかな。

●今の子どもは作文が苦手な子どもが多い。日本語が不十分なのに英語もするのは子どもにとって大変ではと感じる。ただ、言語は書いて覚えるのは大切なことで、タブレット中心の学習は考えていかなくてはいけない。手書きの良さも感じさせたい。

○今の子どもは昔と比べ知識があるよう感じがるが言葉の意味が分からないようだ。

●工夫して言葉を作ることが苦手なため、言葉を知っていても中身が分からぬようだ。学校でも国語力の向上に努めたい。